

授乳中のCOVID-19のワクチン接種に関して配慮すべき点について 2020年12月14日

ABM STATEMENT: Considerations for COVID-19 Vaccination in Lactation

<https://www.bfmed.org/abm-statement-considerations-for-covid-19-vaccination-in-lactation>

2020年12月14日- いくつかの国々では、ファイザー/BioNtech社の mRNA COVID-19ワクチンに緊急使用許可（emergency use authorization: EUA）が最近出されました。Moderna社によって製造される第2のmRNA COVIDワクチンは、今後数週間のうちに審査されます。これら2つのワクチンは類似しているため、この文書の情報は両方のワクチンに適用することができます。

現在、授乳期におけるCOVID-19 mRNAワクチンの使用に関する臨床データはありませんが、米国FDAのEUAは妊娠および授乳中の人にワクチン投与する可能性を残したままにしています。

多くの授乳中の方は、最前線の医療従事者のようにワクチン接種を優先的に受けるカテゴリーに当てはまります。ABMはCOVID-19に対するワクチン接種を受ける人が母乳育児を止めることを推奨しません。COVID-19に罹患、重症化するリスクの個々の状況をふまえて、授乳中の方はワクチン接種のリスクと有益性について医療提供者と話し合うべきです。医療提供者は COVID-19とその合併症を防ぐワクチンの有益性、母乳育児を止めることでの母と子へのリスク、母乳で育てられている児へのワクチンによるリスクと有益性の生物学的妥当性を話し合う際に、共有意思決定（shared decision making）を行うべきです。

これらの対話は難しいものとなります。なぜならばファイザー/BioNtech社ワクチンの臨床試験が授乳中の人を除外したからです。その結果、授乳中の母親でのこのワクチンの安全性に関する臨床データはありません。しかしながら、このワクチンが危害を引き起こすという生物学的妥当性はほとんどなく、母乳中のSARS-CoV-2に対する抗体は母乳を飲んで乳児を守るかもしれませぬ。

このワクチンは、SARS-CoV-2のスパイクタンパクのmRNAを含む脂質ナノ粒子でできています。このmRNAの配列は、このタンパクだけをコードしています。これらの粒子は筋肉内に注射され、そこで、ナノ粒子は筋細胞によって取り込まれます。その後、これらの筋細胞はこのmRNAを転写し、スパイクタンパクを作ります。この細胞によって作られるスパイクタンパクは免疫応答を刺激し、接種を受けた人をCOVID-19による疾患から守ります。

母乳分泌の際、このワクチンの脂質が血流に入って、乳腺組織に達することは起こりそうにありません。もしそうだとした場合、無傷のナノ粒子あるいはmRNAが母乳中に移行することはさらに起こりそうにありません。たとえこのmRNAが母乳中に存在するというありえないような場合でも、児がこのmRNAを消化してしまうと思われ、このmRNAは生物学的な影響を与えることはなさそうです。

子どもにとってもリスクの可能性はわずかしかなく、生物学的に妥当と思われる有益性があります。抗体とワクチンによって刺激されたT細胞は、母乳中に受動的に移行するかもしれません。他のウイルスのワクチンでは接種後5～7日以内にIgA抗体が母乳中に見出されます。そのため母乳中に移行した抗体は、児をSARS-CoV-2の感染から守るかもしれません。

生物学的には保証されていますが、確実な情報に関しては、ワクチンが授乳中の人とその子どもに用いられてから、その結果についてのデータを待たなくてはならないでしょう。

CDCのACIP（予防接種の実施に関する諮問委員会）によると、天然痘と黄熱病を除いて、授乳中のワクチン接種は母親とその児にとっての母乳育児の安全性に影響を及ぼしません。

ABMは、ワクチンの製造者に定期的な安全に関する報告の中に授乳中の人とその子どものデータを含めることを要請します。さらに、将来の研究にルーチンとして妊娠、授乳中の人を対象として含めることを強く勧告します。我々は妊娠および母乳育児をしている人々を研究から守るのではなく、研究を通して守らなければなりません。

（翻訳・掲載についてABMの了解を得ています。）